

まだいける、大月

# 滞在と交流の拠点

このまちにとっての「当たり前」とは、なんだろう。

自然豊かであること。人々があたたかいこと。住んでいるとそれが当たり前  
感じてしまうけど、「それ」が、そのまちだからこそその魅力であるかもしれない。



この敷地全体は、まちの公園となるような開けた場所として訪れた人が  
その土地に溶けこめる場所です。地域住民とそうでない人や、自然との  
交流の場として「サードプレイス」のような場所を提案します。

## 1. ターゲットについて



- ・ファーストプレイス(家)とセカンドプレイス(職場、学校)の往復をするだけ
- ・心の豊かさや他者との交流に欠ける生活

- ・自分の社会的立場を気にせず気軽に交流できる
- ・「自然との交流」で心と身体を休める
- ・「いらっしゃいませ」より「こんにちは」

## 2. この施設での交流について



人と交流する場所を泊まる部屋の間にならべようと考えた。  
それぞれの部屋から出てきて中心に集まる流れを作る  
ことで自然に人と出会い、そこで交流が生まれる動線。  
ひらけた場所になるよう、人が集まる部屋(食、交)は  
利用者を問わず誰でも気軽に使える「公園」のような  
スペースに。

## 3. 各部屋の概要

宿... 自然豊かな場所ならではの自然の音を聞きながら過ごす。水が川を流れる音や鳥の  
鳴き声、風の音など、都会では感じることでできない音を聞く。

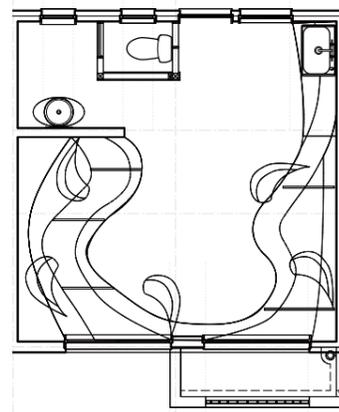
食... 下のサテライトオフィス使用者や地域の人も気軽に使用できる、まちの食堂のような  
存在。お皿は真木焼きを使ったりなどで大月の魅力を伝える。

交... 地域の人と、しっかりとコミュニケーションを取ることを目的として使用してほしい  
場所。ワークショップなどを開いて交流をはかる。「今大月のまちにどんな機能が欲しい  
か」などを話すことでこの施設が良い方向に変わっていく。様々な意見や要望をヒア  
リングして、内と外がうまく循環できるような場所にしたい。



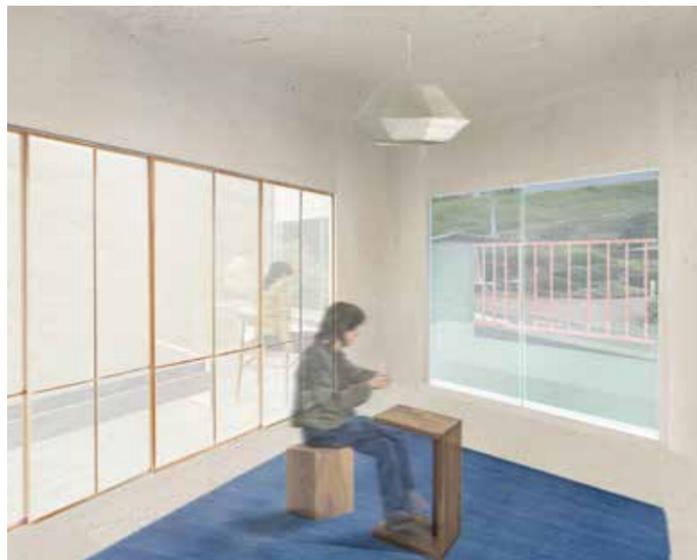
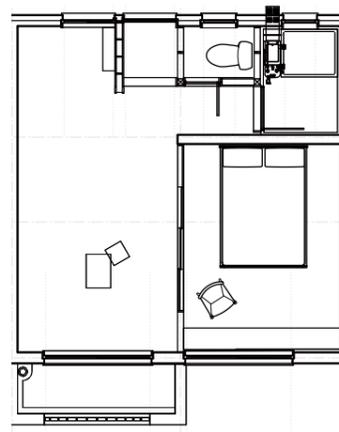
### Dining

曲線で**囲む**デザインをこの部屋だけで完結させた。「食卓を**囲む**」をイメージして、家族で団欒をするように大月の人々とそこに訪れた人々が、気軽に集まって食事をしてほしいという意味を込めて。勾玉のような曲線のテーブルは、木から落ちた水と葉を表現している。



### Stay

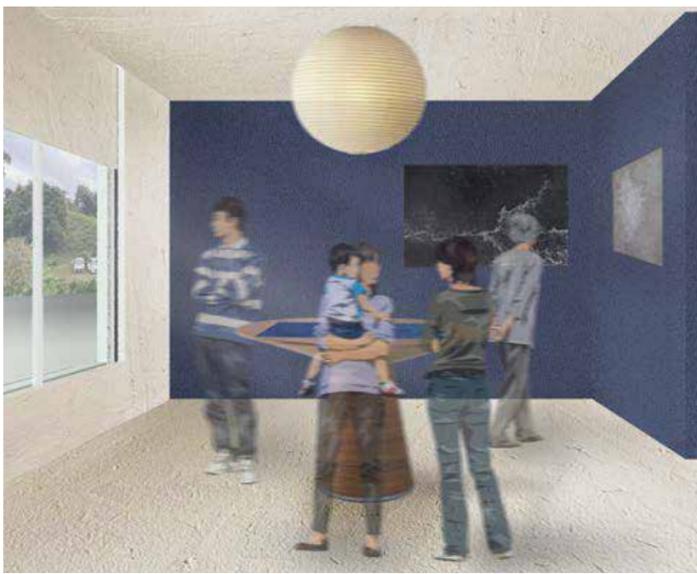
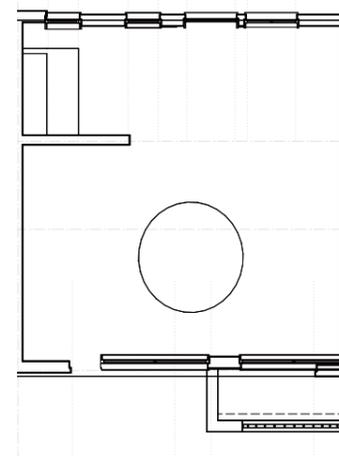
ここでは、「**自然との交流**」を主とする。和紙と漆喰の空間で、繭に包まれたような優しい気持ちになりながら風の音や鳥のさえずりなどの自然の音を聞き、ゆったりとした時間を過ごす。カーペットには藍染を使用。深みのある藍染は使い込むことで色が馴染んでいく魅力がある。年月の**流れ**による生地の変化を、「川の**流れ**」に連想させた。



### Free

落ち着き、自由などの意味がある「青」。穏やかな心で人と関われるようにという意味を込めて、人々の交流を生む部屋には川をイメージした藍色の壁。自然とコミュニケーションが生まれるよう、「円卓を**囲む**」をイメージして、輪のダイニングテーブルを設置。

和紙を使った輪の照明＝人々の**調和**、**和む**場所





和紙

自然との交流が主となる部屋には和紙障子を使用した。和紙というデリケートな素材に向き合うことで動作が丁寧になる。和紙のしわや色合いなどふたつとして同じものはない、それは人間も同じ。考え方も一人一人違う人間の「調和」を願うという意味を込めた和紙障子。全部屋の照明も和紙で揃えた。明るい時間は「ひだまりのような」、夜の暗い時間は「月（月明かり）のような」場所になるように温かみのある柔らかい光が映る和紙を使った。



漆喰

漆喰は、自然素材である。漆喰はビニルクロスなどの壁紙よりも劣化しにくく、長い期間美しい状態を保つことができる。「長い期間劣化しない」という特徴から、大月市が劣化せずこれからも発展していくようにという意味を込めた。



セージグリーン

自然豊かな周囲の緑とリンクさせたセージグリーンは、食の部屋でアクセントクロスとして使用。緑がもたらすイメージには安らぎ、癒し、調和などがある。自然との調和と人間関係の調和をかけた。人間関係の調和とは、対立のない平和で友好的な言葉。



藍

コミュニケーションが中心の部屋では藍色の壁紙を使用。自由、落ち着き、信頼などの色のイメージがある。穏やかな心で人と関われるようにこの色に決めた。

## 未来の大月市

### 空き家問題

1. 人口や仕事の一都三県への集中による空き家問題を、改築することで観光客が泊まれる施設にするなどいった取り組みに繋がれるのではないか
2. このサードプレイスでの体験から「このまちに住みたい」「また来たい」と思ってもらえるようになり大月にファーストプレイスを置くということに繋がる

二地域居住として休日だけ遊びに来る場所から始まり、最終的には居住してもらえる場所になることを期待している

